

## 彙報

会長 影山太郎

### ——常任委員会——

#### シンポジウム「日本語の将来」企画・実行委員会

日時：2010年2月24日(水) 10:30～12:30

場所：東京大学日本語教育センター

出席者：影山太郎（会長）、荻野綱男、菊地康人、長谷川信子、吉田和彦（以上常任委員）、庄垣内正弘（元会長、日本学術会議会員）

日本学術会議・言語系学会連合（2010年4月発足）共催の公開シンポジウム「日本語の将来」の内容について検討し、講師の候補を選出した。

#### 2010年度第1回常任委員会

日時：2010年5月9日(日) 11:00～16:30

場所：東京大学日本語教育センター

出席者：影山太郎（会長）、井上優（事務局局長）、荻野綱男、菊地康人、久保智之、郡司隆男、長谷川信子、早津恵美子、吉田和彦（以上常任委員）

オブザーバー：窪菌晴夫（編集委員長）、小野尚之（大会運営委員長）、玉岡賀津雄（広報委員長）、三原健一（夏期講座小委員会委員長）、高田智和、千葉庄寿（以上事務局委員）

#### [報告事項]

- (1) 前回評議員会以降の主な活動について
  - ・2009年度第2回評議員会（2009年11月28日）以降の主な活動（恒常的業務を除く）が報告された。
- (2) 組織・役員・任期について
  - ・2010年5月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。
- (3) 科学研究費補助金について
  - ・科学研究費補助金成果公開促進費が採択

されたことについて報告がなされた。  
交付期間：2010～2012年度。交付額：2010年度170万円、2011年度170万円、2012年度160万円。

- ・『言語研究』138号～143号の出版の一般競争入札について報告がなされた。（公告：4月30日、締切：5月21日、開札：5月25日）

#### (4) 2010年以降の大会について

- ・以下の予定が報告された。
- 第141回大会（2010年秋季大会）：2010年11月27日(土)～28日(日)、東北大学川内キャンパス(大会実行委員長：上原聡氏)
- 第142回大会（2011年春季大会）：2011年6月18日(土)～19日(日)、日本大学文理学部キャンパス(大会実行委員長：荻野綱男氏)
- 第143回大会（2011年秋季大会）：2011年11月26日(土)～27日(日)、大阪大学豊中キャンパス(大会実行委員長：上田功氏)
- 第144回大会（2012年春季大会）：2012年6月(予定)、会場未定
- 第145回大会（2012年秋季大会）：2012年11月(予定)、九州大学箱崎キャンパス

#### (5) 各委員会報告

- ・編集委員会、大会運営委員会、広報委員会の活動内容が報告された。（本彙報「編集委員会」「大会運営委員会」「広報委員会」の項目参照）
- ・夏期講座小委員会より、夏期講座2010の準備状況、参加申し込み状況について報告がなされた。
- ・Journal@rchive（科学技術振興機構、JST）での『言語研究』の公開に関する問題点について、会長・事務局局長がJST担当者と協議をおこなうことが報告された。

#### (6) 言語系学会連合について

- ・加入学会が29団体（5月9日現在）であること、2010～2011年度は日本言語学会が運営委員長と事務局を担当することが報告された。

- ・言語系学会連合 2010 年度運営委員会 (2010 年 4 月 25 日) の議事内容が報告された。
- (7) シンポジウム「日本語の将来」について
  - ・日本学術会議と言語系学会連合の共催により一般社会人を対象とした公開シンポジウム「日本語の将来」(2010 年 9 月 19 日, 日本学術会議講堂) が開催されること, ならびに 2010 年 5 月 8 日にそのための講師打ち合わせがおこなわれプログラムが確定したことが報告された。

#### [審議事項]

- (1) 委員の増員と任期変更について
  - ・以下のことが承認された。
  - ・杉崎鉦司氏を編集委員, Keith Johnson 氏を海外特別編集委員に追加する。
  - ・広報委員 (危機言語担当) の人選を評議員会までにおこなう。
  - ・高田智和氏, 千葉庄寿氏, 内海敦子氏を事務局委員とする。
- (2) 『言語研究』執筆要項の改定について
  - ・『『言語研究』執筆要領』の「3 原稿の様式と提出方法—要旨」を改定し, 論文提出時に本文と同一言語による要旨を提出するよう求めることが提案され, 承認された。
- (3) Web 申し込みにもなう大会発表要項の改定について
  - ・Web での大会発表申し込みに対応するための大会発表要項の改定が提案され, 承認された。
- (4) 言語学普及検討小委員会の解散について
  - ・言語学普及検討小委員会は所期の目的を終えたので 2010 年 6 月末をもって解散すると提案が会長よりなされ, 承認された。
- (5) 小委員会内規の改定について
  - ・現状に即した形で改定することが提案され, 文言等について評議員会までに事務局が調整をおこなうことを条件に承認された。
- (6) 旅費等の支給に関するガイドラインの改定について

- ・不測の事態による出張中止時のキャンセル料を支給できるようにガイドラインを改定することが提案され, 文言等について評議員会までに事務局が調整をおこなうことを条件に承認された。
- (7) 2009 年度決算について
  - ・2009 年度決算案について確認をおこない, 表の書き方を一部修正することを条件として承認した。
- (8) 2010 年度予算について
  - ・2010 年度予算案について検討し, 承認した。
- (9) 東洋学・アジア研究連絡協議会からの脱退について
  - ・2009 年 12 月の東洋学・アジア研究連絡協議会による「事業仕分け」に対する声明に加わるために 2006 年から 2009 年までの分担金の未払い分を支払ったことが会長より報告された。
  - ・過去の活動実績に鑑みて, 同連絡協議会を脱退する提案が会長よりなされ, 承認された。
- (10) 在外会員の会費について
  - ・在外会員の会費を, 国内会員と同額にする提案 (学生会員 5,500 円→4,000 円, 通常会員 8,500 円→7,000 円) がなされ, 承認された。
- (11) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考について
  - ・評議員を対象とした今年度募集 (試行) の応募状況に関する報告の後, 選考手順について審議した。
  - ・次年度の会員全体を対象とした募集に向けて, 今年度試行の問題点の把握に努める。

#### [その他]

- ・学会賞について今後検討する。
- ・現状で所属先の住所・TEL・FAX を記載している『言語研究』の所属先変更欄の扱いについて評議員会に諮る。

——評議員会——

2010年度第1回評議員会

日時：2010年6月19日(土) 10:30～13:00

場所：筑波大学人文社会学系棟 B519

出席者：影山太郎(会長)、池田潤(第140回大会大会実行委員長)、伊藤たかね、井上優(事務局長)、上山あゆみ、上野善道、青柳宏、大堀壽夫、荻野綱男、生越直樹、風間伸次郎、梶茂樹、加藤重広、金水敏、久保智之(言語学普及検討小委員会委員長)、窪蘭晴夫(編集委員長)、熊本裕、呉人恵、郡司隆男、後藤斉、酒井弘、坂原茂、坂本勉、佐久間淳一、佐々木冠、定延利之、清水克正、城生佰太郎、庄垣内正弘、杉浦滋子、砂川有里子、田野村忠温、玉岡賀津雄(広報委員長)、塚本秀樹、角田太作、西村義樹、西山佑司、新田哲夫、野田尚史、長谷川信子、早津恵美子、福井直樹、藤代節、益岡隆志、町田健、松村一登、三原健一(夏期講座小委員会委員長)、藪司郎、油谷幸利、吉田和彦、鷺尾龍一、和田学(評議員出席者51名)

委任状：16名

オブザーバー：井上和子(顧問)、田窪行則、林徹(会計監査委員)、小野尚之(大会運営委員長)、上原聡(第141回大会大会実行委員長)、高田智和、千葉庄寿(以上事務局委員)

[報告事項]

- (1) 第140回大会について
  - ・会長より開催校である筑波大学に対する謝意が表された後、大会実行委員長の池田潤氏よりあいさつがあった。
- (2) 前回評議員会以降の主な活動報告(会長)
  - ・2009年度第2回評議員会(2009年11月28日)以降の主な活動(恒常的業務を除く)が報告された。
- (3) 役員・組織・任期について(会長)
  - ・2010年6月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。

- (4) 2010年度科学研究費補助金について(事務局長)
  - ・科学研究費補助金成果公開促進費が採択されたことについて報告がなされた。
  - ・交付期間：2010～2012年度。交付額：2010年度170万円、2011年度170万円、2012年度160万円。
  - ・早津恵美子氏が2009年度に引き続き科学研究費経理担当を常任委員となることが報告された。
  - ・『言語研究』138号～143号の出版の一般競争入札を実施し、中西印刷が落札したことが報告された。(公告：4月30日、締切：5月21日、開札：5月25日)

- (5) 2010年度以降の大会について(会長)
  - ・以下の予定が報告された。
  - 第141回大会(2010年秋季大会)：2010年11月27日(土)～28日(日)、東北大学川内キャンパス(大会実行委員長：上原聡氏)
  - 第142回大会(2011年春季大会)：2011年6月18日(土)～19日(日)、日本大学文理学部キャンパス(大会実行委員長：荻野綱男氏)
  - 第143回大会(2011年秋季大会)：2011年11月26日(土)～27日(日)、大阪大学豊中キャンパス(大会実行委員長：上田功氏)
  - 第144回大会(2012年春季大会)：2012年6月(予定)、会場未定
  - 第145回大会(2012年秋季大会)：2012年11月(予定)、九州大学箱崎キャンパス

- (6) 編集委員会報告(窪蘭晴夫委員長)
  - (本彙報「編集委員会」の項目参照)
- (7) 大会運営委員会報告(小野尚之委員長)
  - (本彙報「大会運営委員会」の項目参照)
- (8) 広報委員会報告(玉岡賀津雄委員長)
  - (本彙報「広報委員会」の項目参照)
- (9) 夏期講座委員会報告(三原健一委員長)
  - (本彙報「夏期講座委員会」の項目参照)
- (10) Journal@rchiveについて(事務局長)
  - ・次回大会(141回大会、東北大学)の上原聡大会実行委員長よりあいさつがあった。

- ・ Journal@rchive (科学技術振興機構, JST) での『言語研究』の公開に関する問題点について JST 担当者と協議をおこない、改善をはかっていることが報告された。また、JST による『言語研究』1号～99号でのアーカイブ化が今年夏に完了予定であること、『言語研究』129号以降のアーカイブ化については JST の J-STAGE の利用を検討中であることが報告された。
- (11) 言語系学会連合について (会長, 事務局長)
  - ・ 加入学会が 30 団体 (6 月 19 日現在) であること、2010～2011 年度は日本言語学会が運営委員長と事務局を担当することが報告された。
  - ・ 言語系学会連合 2010 年度運営委員会 (2010 年 4 月 25 日) の議事内容が報告された。
  - ・ 日本学術会議と言語系学会連合の共催により一般社会人を対象とした公開シンポジウム「日本語の将来」(2010 年 9 月 19 日, 日本学術会議講堂) が開催されることが報告された。

#### [審議事項]

- (1) 委員の増員と任期変更について
  - ・ 以下のことが承認された。
  - ・ 杉崎敏司氏を編集委員, Keith Johnson 氏を海外特別編集委員に追加する。
  - ・ 坂本勉氏を次期広報委員長, 李在鎬氏を webmaster, 下地理則氏を危機言語担当とする。
  - ・ 高田智和氏, 千葉庄寿氏, 内海敦子氏を事務局委員とする。
- (2) 『言語研究』執筆要項の改定について
  - ・ 「『言語研究』執筆要領」の「3 原稿の様式と提出方法—要旨」を改定し, 論文提出時に本文と同一言語による要旨を提出するよう求めることが提案され, 承認された。(→別記 1)
- (3) Web 申し込みにもなう大会発表要項の改定について
  - ・ Web での大会発表申し込みに対応するための大会発表要項の改定が提案され,

承認された。(→別記 2)

- (4) 小委員会の解散について
  - ・ 言語学普及検討小委員会は所期の目的を終えたので 2010 年 6 月末をもって解散するとの提案が会長よりなされ, 承認された。
- (5) 小委員会内規の改定について
  - ・ 小委員会内規を現状に即した形で改定することが提案され, 承認された。(→別記 3)
- (6) 旅費等の支給に関するガイドラインの改定について
  - ・ 不測の事態による出張中止時のキャンセル料を支給できるようにガイドラインを改定することが提案され, 承認された。
- (7) 東洋学・アジア研究連絡協議会からの脱退について
  - ・ 2009 年 12 月の東洋学・アジア研究連絡協議会による「事業仕分け」に対する声明に加わり, 2006 年から 2009 年までの分担金の未払い分を支払ったことが会長より報告された。
  - ・ 過去の活動実績を鑑みて, 同連絡協議会を脱退する提案が会長よりなされ, 審議の上, 承認された。
- (8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考について
  - ・ 評議員を対象とした今年度募集 (試行) には 2 件の応募があり, 常任委員会で審議の結果 1 件が採択されたが, その後提案者から辞退の申し出があったことが報告された。
  - ・ 今年度は「採択 1 件, 実施 0 件」となることが承認された。
  - ・ 次年度の会員全体を対象とした募集に向けて, プロジェクト枠の主旨や目的を会員に周知する必要があることが報告された。
- (9) 2009 年度決算・会計監査報告
  - ・ 2009 年度決算について事務局より説明がなされた後, 田窪行則, 林徹会計監査委員より適正との報告があり, 拍手多数により承認された。(→別表 1)
  - ・ 2009 年度科学研究費補助金の執行について適正との報告が早津恵美子常任委員からなされた。

- (10) 在外会員の会費改定について
- ・在外会員の会費を、国内会員と同額にする提案（学生会員 5,500 円→4,000 円、通常会員 8,500 円→7,000 円）がなされ、承認された。
- (11) 2010 年度予算について
- ・2010 年度予算について事務局長より説明がなされ、審議の後、拍手多数により承認された。（→別表 2）
  - ・会長より、名簿積立金に関連して、名簿の必要性について意見があれば伝えてほしいとの要請がなされた。

### ——編集委員会——

#### 2010 年度第 1 回編集委員会

日 時：2010 年 4 月 3 日（土）13:00～16:00

場 所：新大阪ガーデンパレス

出席者：窪菌晴夫（委員長）、風間伸次郎、  
工藤真由美、熊本 裕、郡司隆男、斎藤  
衛、杉崎鉦司、砂川有里子、新田哲夫、  
松本 曜、Timothy Vance

#### [報告事項]

- (1) 杉崎鉦司氏（三重大学：言語獲得・習得、言語処理）を編集委員、Keith Johnson 氏（カリフォルニア大学：音声学）を海外特別編集委員に追加することが報告された。
- (2) 2009 年度の投稿・審査結果が報告された。
- (3) 137 号が予定通り 2010 年 3 月に刊行、発送されたことが報告された。
- (4) 138 号（2010 年 9 月）の編集と刊行について、進捗状況とスケジュールが報告された。

#### [審議事項]

- (1) 特集テーマと執筆（懇湏）候補者
- ・140 号（2011 年 9 月）の特集「言語の変化」について 5 名の執筆候補者を選出した。
  - ・142 号（2012 年 9 月）の特集テーマを「日本の危機言語・危機方言」とした。
- (2) 138 号の特集「コーパスを活用した言

語研究」について、138 号だけでは特集論文が掲載できない場合の扱いについて検討した。139 号に回る特集論文が 3 本以上ある場合は 139 号も同じテーマの特集とし、2 本以下の場合は 139 号は通常号とし、特集論文も一般論文として掲載する。

- (3) 小泉保元会長の追悼文を 138 号に掲載することにした。
- (4) 同一著者による論文の複数（または連続）掲載について検討し、原則として、筆頭著者が同じ論文は 1 つの号に複数本掲載しない（2 本目は次号送り）ことにした。
- (5) 「『言語研究』執筆要領」の「3 原稿の様式と提出方法—要旨」を改定し、論文提出時に本文と同一言語による要旨を提出するよう求めることにした。
- (6) 「『言語研究』執筆要領」の「日本語のローマ字化」の内容について継続審議することにした。
- (7) 「論文」「フォーラム」「書評論文」「書評・紹介」のほかに、「(新刊) 紹介」という第五の投稿カテゴリーを新設する方向で検討を進めることにした。

### ——大会運営委員会——

#### 2010 年度第 1 回大会運営委員会

日 時：2010 年 4 月 4 日（日）11:00～17:00

場 所：東京大学本郷キャンパス

出席者：小野尚之（委員長）、遠藤喜雄、加藤重広、三間英樹、宋在穆、時本真吾、西村義樹、彭国躍、星 泉、堀田優子（以上大会運営委員）、池田 潤（筑波大学：大会実行委員長）

#### [報告事項]

- (1) 140 回大会プログラム概要の学会ホームページへの掲載について委員長より報告がなされた。
- (2) 140 回大会シンポジウムの企画について委員長より報告がなされた。
- (3) 今後の大会の開催予定が確認された。

- (4) 139 回大会の反省点について委員長より報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 140 回大会の応募要旨の審査をおこない、口頭発表 52 件 (応募 82 件)、ポスター発表 3 件 (応募 4 件)、ワークショップ 1 件 (応募 1 件) を採択した。プログラム (7 会場) の編成と司会者の人選をおこなった。
- (2) 141 回大会 (東北大学) のシンポジウムについて開催校で準備中であることが確認された。
- (3) 140 回大会より懇親会の事前申し込みをおこなわないことにした (事前申し込みの人数よりも当日申し込みの人数の方が多かった)。
- (4) 学会ホームページからの発表申し込みについて検討し、申し込み用ページの原案を確認した。

[大会実行委員とのうちあわせ]

- (1) 大会実行委員長より会場校の準備状況の説明がなされた。
- (2) 会場、懇親会、使用機器、プログラム掲載情報等について確認した。

**大会運営委員会その他**

- ・広報委員会とともに学会ホームページからの発表申し込みの準備をおこなった。

——**広報委員会**——

**学会ホームページ**

- ・新しい学会ホームページ (日本語) を公開した (2010 年 3 月)。英語ページ公開のための準備作業をおこなった。
- ・刊行後 1 年を経過した『言語研究』掲載の論文・フォーラム・書評の PDF ファイルを学会ホームページからダウンロードできるようにした。
- ・大会運営委員会とともに学会ホームページからの発表申し込みの準備をおこなった。

**広報委員会その他**

- ・危機言語・危機方言に関する業務を担当する委員を 1 名配置した。
- ・学会ホームページの『言語研究』目次から直接 Journal@rchive (科学技術振興機構) で公開済みの PDF ファイルにアクセスできるようにした。

——**夏期講座委員会**——

**夏期講座 2010**

- ・夏期講座 2010 のホームページを開設し、参加申し込みの受け付けを開始した。
- ・ポスター・チラシ、電子メール等で広報をおこなった。

**2010 年度第 1 回夏期講座委員会**

日 時：2010 年 6 月 18 日 (金) 14:00~16:00  
場 所：北海道大学東京オフィス 10 階小会議室

出席者：三原健一 (委員長)、加藤重広 (実行委員長)、風間伸次郎、西村義樹、堀川智也、橋本喜代太

[報告事項]

- (1) 加藤重広委員 (実行委員長) より夏期講座 2010 の準備状況について報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 夏期講座 2010 開催期間中の委員の役割分担を確認した。
- (2) 夏期講座委員の任期について、半数改選の方向で会則の改定案を提出することとした。
- (3) 夏期講座 2012 の実行委員長を西村義樹委員とし、開催場所を東京大学本郷キャンパスとすることにした。
- (4) 夏期講座マニュアルを現状に合わせて改訂することにした。

——事務局——

**2009 年度会計監査**

日 時：2010 年 5 月 17 日(月) 10:00～13:00  
 場 所：中西印刷 NACOS 学会フォーラム  
 出席者：田窪行則，林 徹（以上会計監  
 査委員），影山太郎（会長），井上 優  
 （事務局長），糸魚川共子（NACOS 学会  
 フォーラム（事務支局））

田窪行則，林徹両委員により 2008 年度決  
 算書と関係書類について監査が実施された。

**事務局その他**

- ・ 科学研究費研究成果公開促進費の交付申  
 請を提出した。（4 月 28 日，事務支局）
- ・ 『言語研究』138 号～143 号の出版（直  
 接出版費）の一般競争入札をおこない，  
 中西印刷に落札した。（公告：4 月 30 日，  
 学会ホームページ。入札締切：5 月 21  
 日。開札：5 月 25 日，国立国語研究所）
- ・ Journal@rchive での『言語研究』の公開  
 に関する問題点と対応策について担当者  
 と協議した（5 月 14 日，科学技術振興機構）
- ・ 言語系学会連語（UALS）事務局として，  
 運営委員会の開催，ホームページ更新，  
 会計管理，シンポジウム「日本語の将  
 来」の講師打ち合わせ等の事務教務をお  
 こなった。

**お 知 ら せ**

● 在外会員の年会費改定

在外会員の年会費（通常会員 8,500 円，学生会員 5,500 円）が，2010 年度分  
 より国内会員と同じ額（通常会員 7,000 円，学生会員 4,000 円）になりました。

	国内会員	在外会員
学生会員	4,000 円	<del>5,500円</del> ➡ 4,000円
通常会員	7,000 円	<del>8,500円</del> ➡ 7,000円
維持会員	10,000 円	10,000 円
賛助会員	1 口 10,000 円	

● 学会ホームページからの大会発表応募

第 140 回大会（2010 年 11 月，東北大学）より学会ホームページからの大会  
 発表応募ができるようになっていきます。詳しくは学会ホームページの「研究大  
 会について」の「発表応募手続き」（[http://www3.nacos.com/lj/modules/documents/  
 index.php?cat\\_id=33](http://www3.nacos.com/lj/modules/documents/index.php?cat_id=33)）をご覧ください。

## 【別記1】『言語研究』執筆要項の「3 原稿の様式と提出方法 c」の「要旨」の改定

(旧)

**要旨** 邦文論文・欧文論文とも、日本語（400字以内）と欧文（20行以内）の両方の要旨を付ける。ただし、要旨は論文の採用が決定してから提出してもよい。

(新)

**要旨** 邦文論文・欧文論文とも、日本語（400字以内）と欧文（20行以内）の両方の要旨を付ける。ただし、論文原稿と異なる言語による要旨は、採用が決定してから提出してもよい。

(2010/6/19改訂)

## 【別記2】「日本語学会 大会発表要項」の改定

(旧)

## 【発表時間】

1. 口頭発表の発表時間は、1件につき30分（発表20分、質疑応答10分）とする。
2. ポスター発表の発表時間は、2時間程度とする。ポスターは、縦110cm×横150cmのスペースに収まるようにする（会場の都合によりスペースが小さくなる場合もある）。
3. ワークショップは、1企画につき2時間程度とする。時間内での構成は自由。

## 【使用言語】

4. 大会発表の使用言語は日本語または英語とする。発表題目および予稿集原稿の使用言語は、日本語発表の場合は日本語、英語発表の場合は英語とする。
5. ワークショップにおいては、日本語・英語以外での発表も可とする。その場合、企画者の責任で日本語または英語の通訳を付ける。通訳の言語が日本語の場合は日本語発表、通訳の言語が英語の場合は英語発表として扱う。

## 【使用機器】

6. 発表のための機器や機材のうち、会場備付の設備およびポスター発表のパネル以外のものは発表者が持参する（会場の都合により機器が使用できない場合もある）。

## 【応募件数】

7. 同一の応募者が同一の大会で筆頭発表者として応募できる件数の上限は、口頭発表・ポスター発表のいずれか1件とワークショップにおける発表1件の合計2件とする。

(新)

## 【発表時間】

1. 口頭発表の発表時間は、1件につき30分（発表20分、質疑応答10分）とする。
2. ポスター発表の発表時間は、2時間程度とする。ポスターは、縦110cm×横150cmのスペースに収まるようにする（会場の都合によりスペースが小さくなる場合もある）。
3. ワークショップは、1企画につき2時間程度とする。時間内での構成は自由。

## 【使用言語】

4. 大会発表の使用言語は日本語または英語とする。発表題目、発表要旨、予稿集原稿の言語もすべて発表に使用する言語を用いる。
5. ワークショップにおいては、日本語・英語以外での発表も可とする。その場合、企画者の責任で日本語または英語の通訳を付ける。通訳の言語が日本語の場合は日本語発表、通訳の言語が英語の場合は英語発表として扱う。

## 【使用機器】

6. 発表のための機器や機材のうち、会場備付の設備およびポスター発表のパネル以外のものは発表者が持参する（会場の都合により機器が使用できない場合もある）。

## 【応募件数】

7. 同一の応募者が同一の大会で筆頭発表者として応募できる件数の上限は、口頭発表・ポスター発表のいずれか1件とワークショップにおける発表1件の合計2件とする。



8. 同一の応募者が同一の大会で類似の内容の発表を重複して応募した場合は、その応募者のすべての応募を無効とする。

【応募手続き】

9. 大会発表の応募は、口頭発表・ポスター発表の場合は筆頭発表者、ワークショップの場合は企画者が行う。採用通知等の学会からの事務連絡も、口頭発表・ポスター発表の場合は筆頭発表者、ワークショップの場合はワークショップ企画者に対して行う。
10. 応募締め切りは、春季大会は3月20日、秋季大会は8月20日（いずれも必着）とする。

11. 応募の際は、発表申込書3部と発表要旨6部を学会事務局に郵送する。

12. 発表申込書と発表要旨は、日本語発表の場合は日本語、英語発表の場合は英語で作成する。

13. 発表申込書は、学会ホームページから最新の様式をダウンロードし、様式記載の指示に従って作成する。

14. 口頭発表およびポスター発表の発表要旨は、次の内容をA4用紙1枚（片面のみ使用）に収まるように書く。発表者の氏名は書かない。10ポイント以上のフォントを用い、特殊な文字や略語の使用は可能な限り避ける。

- (1) 発表題目（簡潔かつ内容を明快に反映するもの）
- (2) キーワード（以下の項目について各1つ以上）  
対象言語名（必要に応じて語族あるいは地域名も）  
分野・方法（例：形式意味論、実験音声学、比較言語学）  
その他（発表内容を端的に表すもの）
- (3) 発表要旨（問題の所在、議論の流れ、結論、本質的に重要なデータ、セー  
ルスポイントを簡潔に記述する。）
- (4) 引用文献

8. 同一の応募者が同一の大会で類似の内容の発表を重複して応募した場合は、その応募者のすべての応募を無効とする。

【応募手続き】

9. 大会発表の応募は、口頭発表・ポスター発表の場合は筆頭発表者、ワークショップの場合は企画者が行う。採用通知等の学会からの事務連絡も、口頭発表・ポスター発表の場合は筆頭発表者、ワークショップの場合はワークショップ企画者に対して行う。
10. 応募締め切りは、春季大会は3月20日、秋季大会は8月20日（いずれも必着）とする。

【発表要旨の作成および応募方法】

（発表要旨の作成）

11. 口頭発表およびポスター発表の発表要旨は、次の内容をA4用紙1枚（片面のみ使用）に収まるように書く。発表者の氏名は書かない。10ポイント以上のフォントを用い、特殊な文字や略語の使用は可能な限り避ける。

- (1) 発表題目（簡潔かつ内容を明快に反映するもの）
- (2) キーワード（以下の項目について各1つ以上）  
対象言語名（必要に応じて語族あるいは地域名も）  
分野・方法（例：形式意味論、実験音声学、比較言語学）  
その他（発表内容を端的に表すもの）
- (3) 発表要旨（問題の所在、議論の流れ、結論、本質的に重要なデータ、セー  
ルスポイントを簡潔に記述する。）
- (4) 引用文献

15. ワークショップの発表要旨は、次の内容をA4用紙2枚(片面のみ使用)に収まるように書く。企画者、司会者、発表者の氏名は書かない。10ポイント以上のフォントを用い、特殊な文字や略語の使用は可能な限り避ける。
- (1) ワークショップ題目
  - (2) ワークショップの趣旨
  - (3) ワークショップの構成
  - (4) 各発表の題目と要旨(日本語発表は日本語、英語発表は英語)

#### 【採用決定後】

16. 採用通知の際には以下の点を通知する。
  - (1) 発表の日時と会場(予定)
  - (2) プログラム掲載の発表題目と発表者氏名
  - (3) 応募時に申請された機器使用の可否
  - (4) 大会発表要旨(学会ホームページと『言語研究』に掲載)および予稿集原稿の作成要項、提出方法、提出期限
  - (5) 発表に際しての注意事項
17. 採用決定後の使用言語、発表題目、発表者、使用機器、ワークショップ構成の変更は認められない。
18. 筆頭発表者、ワークショップ企画者は、大会運営委員会が定める大会発表要旨作成要項、予稿集原稿作成要項に基づき、大会発表要旨および予稿集原稿を作成し、指定の期日までに学会事務局に提出する。

12. ワークショップの発表要旨は、次の内容をA4用紙2枚(片面のみ使用)に収まるように書く。企画者、司会者、発表者の氏名は書かない。10ポイント以上のフォントを用い、特殊な文字や略語の使用は可能な限り避ける。
- (1) ワークショップ題目
  - (2) ワークショップの趣旨
  - (3) ワークショップの構成
  - (4) 各発表の題目と要旨(日本語発表は日本語、英語発表は英語)

#### (応募方法)

13. 応募は、学会ホームページからの応募、または郵送による応募のいずれかで行う。
14. 学会ホームページから応募する場合は、大会発表申込ページの所定の欄に必要事項を記入した上で、発表要旨をPDFファイルに変換して送付する。応募方法の詳細は大会発表申込ページを参照のこと。
15. 郵送により応募する場合は、発表申込書3部と発表要旨6部を学会事務支局に郵送する。発表申込書は、学会ホームページから最新の様式をダウンロードし、様式記載の指示に従って作成する。

#### 【採用決定後の通知等】

16. 採用通知の際には以下の点を通知する。
  - (1) 発表の日時と会場(予定)
  - (2) プログラム掲載の発表題目と発表者氏名
  - (3) 応募時に申請された機器使用の可否
  - (4) 大会発表要旨(学会ホームページと『言語研究』に掲載)および予稿集原稿の作成要項、提出方法、提出期限
  - (5) 発表に際しての注意事項
17. 採用決定後の使用言語、発表題目、発表者、使用機器、ワークショップ構成の変更は認められない。
18. 筆頭発表者、ワークショップ企画者は、大会運営委員会が定める大会発表要旨作成要項、予稿集原稿作成要項に基づき、大会発表要旨および予稿集原稿を作成し、指定の期日までに学会事務局に提出する。

(2010/6/19改訂)

[別記 3] 小委員会内規の改定

(旧)

- 1 小委員会は、特定の検討事項が発生し、会長がその必要を認めた場合に、評議員会の承認を経て設置される。
- 2 小委員会の委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。
- 3 小委員会の委員長は、会長と協議のうえ、個人会員中より小委員会委員を指名委嘱し、小委員会を組織する。会計監査委員は、小委員会委員を兼ねることができる。
- 4 委員長の任期は3年とし、1期に限る。委員の任期は3年とし、引き続き2期までの重任、ならびに期を隔てての再任は妨げない。
- 5 小委員会は、その活動の企画立案ならびに運営については独立性をもつが、活動状況を評議員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。
- 6 特別な予算執行を伴う企画については、小委員会が前年度のうちに会長に諮り、予算の計上を申し入れる。
- 7 小委員会は、その目的が達せられた時点、または会長がその必要性がなくなったと判断した時点において、評議員会の承認を経て解散される。

(備考) この改訂は2009年4月1日より適用する。

(新)

- 1 小委員会は、特定の検討事項が発生し、会長がその必要を認めた場合に、評議員会の承認を経て設置される。
- 2 小委員会の委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。
- 3 小委員会の委員長は、会長と協議のうえ、個人会員中より小委員会委員を指名委嘱し、小委員会を組織する。会計監査委員は、小委員会委員を兼ねることができる。
- 4 委員長と委員の任期は、小委員会の設置時に定める。任期の変更が必要な場合は、評議員会の承認を経て、任期を定めなおす。
- 5 小委員会は、活動状況を評議員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。
- 6 (削除)
- 7 (削除)

(備考) (削除)

(2010/6/19改訂)

【別表 1】2009 年度日本言語学会決算

自 2009 年 4 月 至 2010 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,286,500	刊 行 費	4,273,185
雑 誌 売 上	1,295,650	発 送 費	403,290
科学研究費補助金	1,800,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	285	大 会 関 係 費	3,283,421
預 金 金 利	15,660	評議員会費(委員会費)	270,159
大会関係収入	2,183,250	編 集 委 員 会 費	330,740
広 告 料	150,000	大会運営委員会費	304,500
雑 収 入	0	広 報 委 員 会 費	492,825
雑 益	0	常 任 委 員 会 費	544,916
基金からの繰入	0	「危機言語」小委員会費	0
夏期講座収入	0	夏期講座小委員会費	38,000
		言語学普及小委員会費	326,776
		事 務 局 費	711,926
		危機言語シンポジウム費	0
		夏 期 講 座 費	0
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	488,386
		消 耗 品 費	295,154
		雑 費	15,750
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		予 備 費	87,660
		(基金への繰入)	
		名簿作成積立金	700,000
		選挙関係積立金	300,000
		言語学普及積立金	500,000
		e-ジャーナル積立金	500,000
収 入 合 計	18,731,345	支 出 合 計	18,260,688
前 期 繰 越 金	6,741,908	次 期 繰 越 金	7,212,565
計	25,473,253	計	25,473,253

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内個人会員	11,361,500
国内維持会員	150,000
国内学生会員	924,000
国内団体会員	710,500
国内賛助会員	10,000
在外個人会員	130,500

---

合 計 13,286,500

雑誌売上

書店販売	1,276,050
三省堂書店	22,050
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	976,800
丸善	207,900
その他書店	69,300
事務局販売	19,600

---

合 計 1,295,650

科学研究費補助金 1,800,000

科学研究費補助金利息 285

預金金利 15,660

大会関係収入

大会出店料	
138 回大会 1 スペース 1 日（1 社）	5,000
1 スペース 2 日（6 社）	60,000
2 スペース 2 日（2 社）	40,000
3 スペース 2 日（1 社）	30,000
139 回大会 1 スペース 2 日（7 社）	70,000
2 スペース 2 日（2 社）	40,000

予稿集売上	
138 回大会	1,100,000
139 回大会	780,000
事務局（118～139回大会バックナンバー）	34,000
保育関係収入	24,250

---

合 計 2,183,250

広告料 150,000

## ◇支出内訳（単位：円）

刊行費	印刷部数		各号共に 2,300 部
	136 号 (264 p.)	137 号 (170 p.)	計 (434 p.)
印刷費	2,570,400	1,663,200	4,233,600
抜刷代	26,355	13,230	39,585
合 計	2,596,755	1,676,430	4,273,185

※割付・校正料は印刷費に含む

## 発送費

『言語研究』 発送料	136 号	234,800
	137 号	168,490
合 計		403,290

## 事務委託費

4,284,000

2009 年 4 月分～2010 年 3 月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

## 大会関係費

内 訳	第 138 回	第 139 回	計
プログラム印刷費	105,000	105,000	210,000
ポスター印刷費	127,200	109,200	236,400
出欠葉書印刷費	24,150	24,150	48,300
予稿集印刷費	737,100	740,250	1,477,350
その他印刷費 / 備品	32,760	26,250	59,010
大会関係発送費	50,550	155,909	206,459
大会費	437,563	337,909	775,472
講師謝金等	70,000	103,660	173,660
託児関係支払	0	96,770	96,770
合 計	1,584,323	1,699,098	3,283,421

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

## 評議員会費（委員会費）

通信費	960
旅費	14,000
会議費	197,449
資料印刷費	57,750
合 計	270,159

<b>編集委員会費</b>	
通信費	34,000
旅費	152,320
会議費	20,110
アルバイト費	99,000
その他	25,310
合 計	330,740
<b>大会運営委員会費</b>	
旅費	304,500
<b>広報委員会費</b>	
旅費	133,200
学会 HP インストール、デザイン一式	304,500
129～135号アーカイブ PDF 化	55,125
合 計	492,825
<b>常任委員会費</b>	
通信費	315
旅費	523,125
会議費	21,476
合 計	544,916
<b>「危機言語」小委員会費</b>	0
<b>夏期講座小委員会費</b>	
旅費	30,000
会議費	8,000
合 計	38,000
<b>言語学普及小委員会費</b>	
旅費	326,776
<b>事務局費</b>	
通信費	7,530
旅費	179,600
会議費	8,796
事務局長補佐謝金	60,000
役員等経費補助	456,000
合 計	711,926

「危機言語」シンポジウム費	0
夏期講座費	0
<b>CIPL 負担金</b>	
2009 年度負担金	110,000
<b>通信費</b>	
切手購入、通常発送費	50,915
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	25,200
会費請求・督促状送料	255,352
カード手数料・送金手数料	58,304
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	81,180
大会関係送料	14,495
その他（文科省提出書類発送等）送料	2,940
合 計	488,386
<b>消耗品費</b>	
文房具購入費	12,731
振替用紙印刷費	64,548
封筒印刷費	205,800
その他（処理票、送付状）	12,075
合 計	295,154
<b>雑費</b>	
生花代（小泉保元会長葬儀）	15,750
<b>予備費</b>	
会員名簿追加発送費	580
言語系学会連合 HP 作成費負担分	31,500
「日本語の将来」シンポ企画・実行委員会旅費	47,580
東洋学（アジア研究）連絡協議会会費	8,000
合 計	87,660
<b>基金への繰入</b>	
名簿作成積立金	700,000
選挙関係積立金	300,000
言語学普及積立金	500,000
e-ジャーナル積立金	500,000
合 計	2,000,000



◇ 2009 年度決算 予算・実績対照表

収入

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
会 費	13,000,000	13,286,500	286,500
雑 誌 売 上	500,000	1,295,650	795,650
科学研究費補助金	1,800,000	1,800,000	0
科学研究費補助金利息	0	285	285
預 金 金 利	2,000	15,660	13,660
大会 関 係 収 入	1,600,000	2,183,250	583,250
広 告 料	0	150,000	150,000
雑 収 入	10,000	0	△ 10,000
雑 益	0	0	0
基金からの繰入	0	0	0
夏期講座収入	0	0	0
収 入 合 計	16,912,000	18,731,345	1,819,345
前 期 繰 越 金	6,741,908	6,741,908	0
合 計	23,653,908	25,473,253	1,819,345

支出

(単位：円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊 行 費	5,182,846	4,273,185	909,661
発 送 費	500,000	403,290	96,710
事 務 委 託 費	4,284,000	4,284,000	0
大会 関 係 費	4,500,000	3,283,421	1,216,579
評議員会費(委員会費)	200,000	270,159	△ 70,159
編 集 委 員 会 費	600,000	330,740	269,260
大会運営委員会費	900,000	304,500	595,500
広 報 委 員 会 費	600,000	492,825	107,175
常 任 委 員 会 費	1,000,000	544,916	455,084
「危機言語」小委員会費	200,000	0	200,000
夏期講座小委員会費	300,000	38,000	262,000
言語学普及小委員会費	600,000	326,776	273,224
事 務 局 費	900,000	711,926	188,074
危機言語シンポジウム費	0	0	0
夏 期 講 座 費	0	0	0
C I P L 負 担 金	110,000	110,000	0
通 信 費	700,000	488,386	211,614
消 耗 品 費	400,000	295,154	104,846
雑 費	77,062	15,750	61,312
名簿作成費	0	0	0
選挙関係費	0	0	0
予 備 費	600,000	87,660	512,340
(基金への繰入)	—	—	—
名簿作成積立金	700,000	700,000	0
選挙関係積立金	300,000	300,000	0
言語学普及積立金	500,000	500,000	0
e-ジャーナル積立金	500,000	500,000	0
支 出 合 計	23,653,908	18,260,688	5,393,220
次 期 繰 越 金	0	7,212,565	△ 7,212,565
合 計	23,653,908	25,473,253	△ 1,819,345

## ◇資産勘定

2010年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	356,924	国内個人	113,000
みずほ銀行口座	5,779,927	国内学生	119,000
郵便振替口座	576,048	国内団体	7,000
カード	19,500	在外個人	52,500
本部事務局		在外学生	11,000
事務局口座	0	前受購読料	176,400
夏期講座小委員会口座	315	未払金**	10,049
未収金*	976,800	仮受金	8,000
		次期繰越	7,212,565
計	7,709,514	計	7,709,514

\* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2009年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
『言語研究』売上げ(松香堂取次分)	976,800
合計	976,800

\*\* 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2009年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内 訳	金 額
CIPL 負担金(一部)	10,000
大会運営委員会費未払分	49
合計	10,049

基金 決算

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	8,867,553		
一般会計から繰入	2,000,000		
定期預金金利	3,575		
収入合計	10,871,128	支出合計	0
		次期繰越金	10,871,128
計	10,871,128	計	10,871,128

基金 資産勘定

2010年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	7,050,000	積立金	10,871,128
京都銀行定期預金口座	3,821,128		
計	10,871,128	計	10,871,128

○基金内訳

2010年3月31日 (単位：円)

2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
2009年度選挙関係積立金	300,000
2009年度名簿作成積立金	700,000
2009年度言語学普及積立金	500,000
2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
2004年度記念大会積立金*	1,000,000
2004年度夏期講座積立金***	2,000,000
2004年度危機言語プロジェクト積立金	401,052
2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
2003年度記念大会積立金	1,200,000
2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
2002年度記念大会積立金	400,000
2001年度記念大会積立金	400,000
2000年度記念大会積立金	400,000
1999年度記念大会積立金	500,000
1998年度記念大会積立金	250,000
預金利子積立分***	20,076
計	10,871,128

\* 2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期（預金番号002）に一括して積立。

\*\* 2004年度夏期講座積立金は、みずほ銀行定期（預金番号035）に600,000円、京都銀行定期（預金番号002）に1,400,000円積立

\*\*\* 京都銀行定期（預金番号002）に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息

2010年3月31日(単位:円)

記念大会積立金	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,200,000
	2002年度	400,000
	2001年度	400,000
	2000年度	400,000
	1999年度	500,000
	1998年度	250,000
夏期講座積立金	2004年度**	2,000,000
危機言語プロジェクト積立金	2005年度	300,000
	2004年度	401,052
e-ジャーナル積立金	2009年度	500,000
	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,000,000
選挙関係積立金	2009年度	300,000
名簿作成積立金	2009年度	700,000
言語学普及積立金	2009年度	500,000
預金利子積立分***		20,076
計		10,871,128

○基金内訳(銀行別) 2010年3月31日(単位:円)

銀行名	預かり番号	名目	金額
みずほ銀行	044	2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
みずほ銀行	045	2009年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	046	2009年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	047	2009年度言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金*	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金*	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	401,052
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	014	1999年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子積立分**	20,076
計			10,871,128

\* 2004年度記念大会積立金1,000,000円, 2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円, 2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期(預金番号002)に一括して積立。

\*\* 京都銀行定期(預金番号002)に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円, 2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円, 2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息

【別表2】2010年度日本語学会予算

自 2010年4月 至 2011年3月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	4,252,500
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	500,000
科学研究費補助金	1,700,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,500,000
預 金 金 利	15,000	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	800,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	500,000
雑 収 入	0	大 会 運 営 委 員 会 費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	700,000
夏 期 講 座 収 入	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
		事 務 局 費	900,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 費	500,000
		夏 期 講 座 準 備 費	1,200,000
		言 語 系 学 会 連 合 費	150,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		予 備 費	1,231,065
		( 基 金 へ の 繰 入 )	
		名 簿 作 成 積 立 金	700,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
収 入 合 計	16,815,000	支 出 合 計	24,027,565
前 期 繰 越 金	7,212,565	収 支 差 額 ( 次 期 繰 越 金 )	0
計	24,027,565	計	24,027,565

## 第 140 回大会

期日 2010年6月19日(土)・6月20日(日)

会場 筑波大学

公開シンポジウム 6月20日(日) 13:30～16:30

## 「数の言語学」

英語の数と呼応一〈形〉と〈意味〉のミスマッチー

類別詞言語のものの数え方

アイス語の1を示す数詞

可算・不可算と複数の関連性一「たち」の考察を通じて一

司会 砂川有里子

高見 健一

水口志乃扶

切替 英雄

中西 公子

## 口頭発表・ワークショップ

一 第1日(6月19日(土)) 13:30～17:10 一

## ◦A会場

- |        |        |   |                    |
|--------|--------|---|--------------------|
| (1-A1) | 13:30～ | Complement deletion in modern Ulster Irish      | Dónall P. Ó BAOILL |
|        |        |   | Hideki MAKI        |
| (1-A2) | 14:05～ | Patterns of A <sup>1</sup> -chains in Selayrese | Hideki MAKI        |
|        |        |   | Hasan BASRI        |
| (1-A3) | 14:40～ | 日本語関係節の統語範疇に関して                                 | 赤楚 治之              |
|        |        |   | 原口 智子              |
| (1-A4) | 15:30～ | 「do so」と「そうする」の照応範囲について                         | 金 重逸               |
| (1-A5) | 16:05～ | ロゴフォリック代名詞および長距離照応形の統語・意味マッピングと主語コントロールへの帰結     | 伊藤 祐輝              |

## ◦B会場

- |        |        |   |       |
|--------|--------|---|-------|
| (1-B1) | 13:30～ | 付加疑問文の派生と Relativized Minimality 効果について | 本多 正敏 |
| (1-B2) | 14:05～ | 固有名詞の統語構造とその解釈様式                        | 猪熊 作巳 |
| (1-B3) | 14:40～ | 日本語多重主語構文の叙述構造                          | 中本 武志 |
| (1-B4) | 15:30～ | 連接名詞句の単数解釈                              | 田中 大輝 |
|        |        |   | 林下 淳一 |
| (1-B5) | 16:05～ | 範疇文法による非構成素等位接続の分析                      | 窪田 悠介 |
| (1-B6) | 16:40～ | それは本当に等位構造?                             | 依田 悠介 |

## ◦C会場

- |        |        |  |       |
|--------|--------|--|-------|
| (1-C1) | 13:30～ | 形式名詞コトのモダリティ   | 金 英周  |
|        |        | 一談話における知識管理の観点から一                                    | 酒井 弘  |
| (1-C2) | 14:05～ | 仮想現実の設定とソ系列指示詞                                       | 藤本真理子 |
|        |        | 一古代日本語を中心に一  |       |
| (1-C3) | 14:40～ | 日本語名詞句「NP <sub>1</sub> のNP <sub>2</sub> 」の意味と名詞の意味特性 | 西川 賢哉 |
|        |        | 一非飽和名詞, 譲渡不可能名詞, 譲渡可能名詞一                             |       |
| (1-C4) | 15:30～ | 日本語のテキスト処理における視点の統一性の影響                              | 魏 志珍  |
|        |        |  | 玉岡賀津雄 |
|        |        |  | 大和 祐子 |
| (1-C5) | 16:05～ | 可視化に基づく助数詞分析   | 李 在鎬  |
|        |        | 一共起ネットワークを用いて一                                       |       |
| (1-C6) | 16:40～ | 主観的状况と日本語受身文   | 町田 章  |

## ◦D会場

- (1-D1) 13:30 ~ 日本語の語彙的複合動詞の語形成  
—特質構造における語形成— 日高 俊夫
- (1-D2) 14:05 ~ 譲歩文の処理における副詞の影響について 備瀬 優  
坂本 勉
- (1-D3) 14:40 ~ 「小耳に挟む」  
—接辞繰り上げ分析と型繰り上げ分析— 戸次 大介
- (1-D4) 15:30 ~ Towards a new perspective on semantic typology of  
event framing in Japanese and Mandarin Wenchao LI  
Naoyuki ONO
- (1-D5) 16:05 ~ The lexical typology of ditransitive constructions: Andrej L. MALCHUKOV  
a semantic map approach
- E 会場
- (1-E1) 13:30 ~ 他地域出身者の「気がつきにくい方言」使用にかん  
する—考察—沖縄地域の「～わけ」の使用意識調査  
から— 副島 健作
- (1-E2) 14:05 ~ 中国語仮定複句の代表的な関連詞「如果」の使用動機 陳 会林
- (1-E3) 14:45 ~ 中国語の類別詞「塊」の認知意味論的分析 游 韋倫
- (1-E4) 15:30 ~ ジッパーリ語のアクセント  
—音響解析と聴取実験を通して— 二ノ宮崇司
- (1-E5) 16:05 ~ ノルウェー語 Sandnes (サンネス) 方言の  
複合語アクセント規則 三村 竜之
- (1-E6) 16:40 ~ オノマトベにおける有生性  
—声と音の違いが生む違い— 秋田 喜美
- F 会場
- (1-F1) 13:30 ~ 日本語の「持つ」と韓国語の *gajida* について 韓 必南  
—連体修飾の機能を果たす場合—
- (1-F2) 14:05 ~ 日本語の「のだ」と中国語の「是…的」構文 劉 向東  
—コーパスによるアプローチ—
- (1-F3) 14:45 ~ 韓国語の複数標識 *-tul* について 蔡 熙鏡
- (1-F4) 15:30 ~ 談話機能からみた日本語関係節処理—コーパス調査と  
読文時間計測実験による検証— 佐藤 淳  
カラフマン・バルシュ  
酒井 弘
- (1-F5) 16:05 ~ Effects of relative clause type and aspect in subject-verb  
agreement Yukie HARA  
Amy SCHAFER
- (1-F6) 16:40 ~ Effects of word order alternation in the processing of  
spoken Sinhalese sentences Katsuo TAMAOKA  
A. B. Prabath KANDUBODA  
Hiromu SAKAI
- G 会場
- (1-G1) 13:30 ~ ナーナイ語の条件表現 風間伸次郎
- (1-G2) 14:05 ~ サハ語 (ヤクート語) の補語 江畑 冬生
- (1-G3) 14:45 ~ オロエ語の所有構造と動詞構造における名詞 (代名  
詞) の現れ方 辻 笑子
- (1-G4) 15:30 ~ インドネシア語における認識動詞の使役形・受動形  
の意味素性について 山崎 雅人
- (1-G5) 16:05 ~ アラビア語チュニス方言 (チュニジア) の非動詞的文 熊切 拓

(1-G6) 16:40 ~ 古代エジプト神官文字の表記要素—「エルミター  
ジュ・パピルス No. 1115」の文字素論的分析— 永井 正勝

—第2日 (6月20日(日)) 10:00 ~ 11:40—

◦ B 会場

(2-B1) 10:00 ~ 日本語における分離話題化とその性質について 菅原 彩加  
(2-B2) 10:35 ~ 日本語の同一指示と分裂構文 池田 則之  
(2-B3) 11:10 ~ 節レベルでの選言的等位接続をめぐる事実は本当に  
日本語使役構文が複文構造を持つ証拠になっている  
か 矢田部修一

◦ C 会場

(2-C) ワークショップ (10:00 ~)  
「スケール構造に基づく語彙意味論・語用論に対する形式的アプローチの進展」  
司会 窪田 悠介  
日英語の結果構文におけるスケール構造と事象構造  
の同形性 上垣 渉  
日本語の数量的累加表現におけるスケール構造につ  
いて—「もう」と「あと」を中心に— 澤田 治  
中国語における複雑形容詞のスケール構造 彭 筱雲

◦ D 会場

(2-D1) 10:00 ~ 琉球語のエヴィデンシャリティーシステム 新垣 友子  
(2-D2) 10:35 ~ 奄美大島湯湾方言の deictic motion verbs *ik-*「行く」と  
*ku-*「来る」 新永 悠人  
(2-D3) 11:10 ~ 宮古語大神方言の副動詞と非従属化 トマ ペラール

◦ E 会場

(2-E1) 10:00 ~ 中国語における作用域関係についての考察 徐 佩伶  
—普遍数量詞と疑問詞の相互作用—  
(2-E2) 10:35 ~ 中国語の文構造と格理論 郭 楊  
(2-E3) 11:10 ~ 中国語疑問文の成立条件 王 慶

◦ F 会場

(2-F1) 10:00 ~ 日本語兒による目的語位置に「だけ」を含む  
否定文の解釈 野地 美幸  
(2-F2) 10:35 ~ 事象関連電位に見る日本語不連続依存制約 時本 真吾  
—統語構造とワーキングメモリー—  
(2-F3) 11:10 ~ CHILDES を用いた英語の *wh-* 疑問文獲得に関する  
縦断的研究 深谷 修代

ポスター発表 6月20日(日) 12:00 ~ 13:00

◦ 1C 2階ホール

(2-P1) Priority information for canonical A. B. Prabath KANDUBODA  
word order of written Sinhalese sentences Katsuo TAMAOKA  
(2-P2) 東アジアの味ことばとその意味拡張 高嶋由布子  
—中国語貴州方言, プイ語, 日本語を例として— 梶丸 岳  
(2-P3) 「病院の言葉」の類型の推測とモデル化—『現代日  
本語書き言葉均衡コーパス』における語の使用度数  
を用いた一考察— 田中 牧郎  
丸山 岳彦



◇退 会

国内通常会員	34 名
国内学生会員	11 名
国内団体会員	2 件